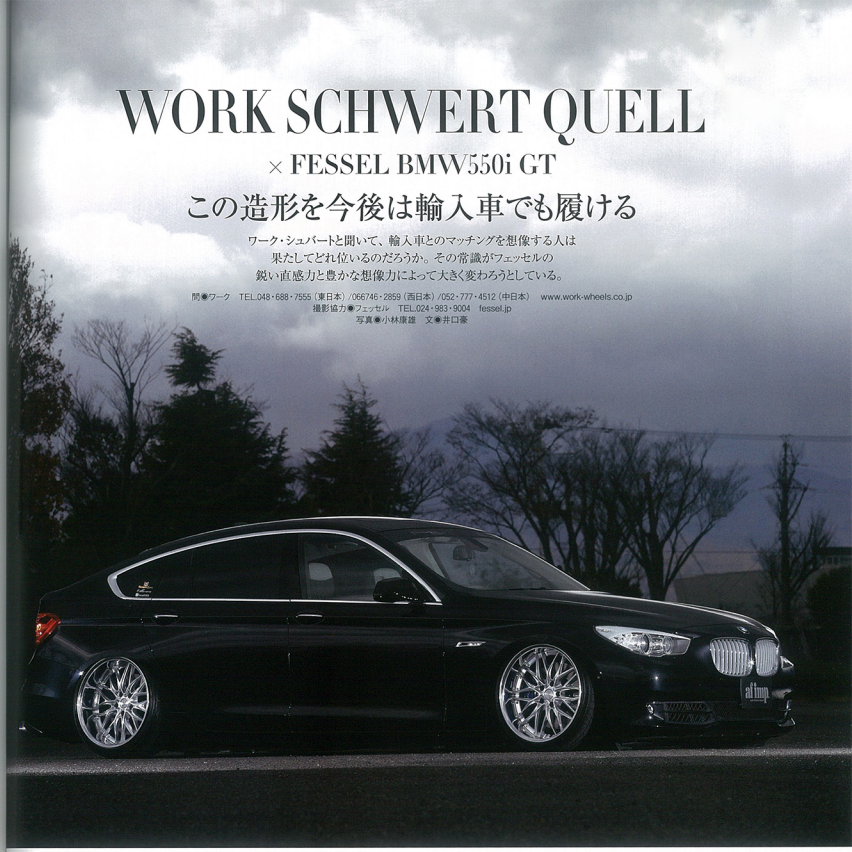
WORK SCHWERT QUELL

× FESSEL BMW550i GT

この造形を今後は輸入車でも履ける

ワーク・シュバートと聞いて、輸入車とのマッチングを想像する人は
果たしてどれ位いるのだろうか。その常識がフェッセルの
鋭い直感力と豊かな想像力によって大きく変わろうとしている。

問●ワーク　TEL:048・688・7555（東日本）/066746・2859（西日本）/052・777・4512（中日本）　www.work-wheels.co.jp
撮影協力●フェッセル　TEL:024・983・9004　fessel.jp
写真●小林康雄　文●井口豪



国産車向け人気ホイールが輸入車でも装着可能に

2018年の東京オートサロンでワークのブースに足を運んだ際、輸入車向けの新作ホイールとして紹介されたのはグーシスの3モデルだった。一方、同じ日にリリースされたシュバートは、現在もマッチングデータは日本車がメインの構成だし、装着イメージ写真も国産のセダンやミニバンが大多数を占める。シュバートは当初、国産車ユーザー向けに発表されたモデルだったといえる。でも、新進気鋭のブロショップ「フェッセル」は、既成概念なんて何処吹く風。コレを輸入車に履かせれば面白い一台が仕上がると、ワークの担当者に提案していた。しかも、ベース車に選んだのはBMW550i グランツーリスモ。日本ではマイナーな存在の5シリーズGTに国産車向けホイールを合わせれば、前代未聞のマッチングが実現するとの読みがあったようだ。

と、入口の話だけでは安直に思われるかもしれないが、そこから先が「さすがフェッセル」だ。シュバートはメッシュのクヴェルとフィンタイプのレグニッツをラインアップしているが、BMWとの王道の組み合わせのメッシュをチョイス。カラーは陰影で繊細なクヴェルのスポークデザインを表現するシルキーシルバーを選択した。そして、とくにコダわったのがサイズ設定だった。2ピースのメリットを生かして前後とも マイナスインセットを指定し、リム幅をフロント10J：リア11Jに設定。フロントをAディスク、リアをOディスクにし、類い稀なディープリムを実現しているのだ。こうした細かいセッティングにワークが柔軟に対応してくれることも、シュバートを選んだ理由のひとつだった。

そうして作り上げられた深い鏡面のリムは、クヴェルの滑らかで表情豊かなスポークをはっきりと映し出す。鋳造だから成し得る華美なスポーク形状をリムでも表現してくれる。この見事な造形を輸入車でも享受できるようにしたフェッセルの功績は、とてつもなく大きい。

WORK
Schwert Quell
F:20x10J -11mm A disk
R:20x11J -2mm O disk
5穴 PCD:120 SRS-B2

↑一滑らかで流れるような立体感溢れる造形は鋳造ならではの。わずか約4ミリのスポーク先端の天面と、何層にも渡る緩やかな曲面は、天面に切削加工を施さない繊細な仕上げによって作られる

←↑前後ともにリム深度にコダわってリム幅とインセットを設定。もともと純正キャリパーが大きい上に、リム深度を犠牲にしたくないとの理由で、ブレーキは純正のままに。純正のフォルムを生かすために、ボディ加工はフェンダーをやや出す程度に抑えた

↑スタイリッシュなローフォルムはエアフォースで実現。5シリーズGTは前例がなかったため、ワンオフ製作となった。その上でアーチ上げなどが施されている

↓テールエンドに配したチタンの焼き色が目を引くマフラーは、パワークラフトによるワンオフ。ドライビングフィールを高めるマフラーサウンドを奏でる

←輸入車好きが高じて福島県郡山市にフェッセルを開業した熊野夫妻。近年、福島のスタイルアップシーンが盛り上がりをみせているのは、このおふたりのおかげといっても過言ではない